

「こおりやまの米」通信

平成25年6月20日



郡山市
イメージキャラクター
「がくとくん」

編集：郡山市

JA 郡山市 (Tel. 921-0724)

NOSAI 郡山田村 (Tel. 933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 935-1310)

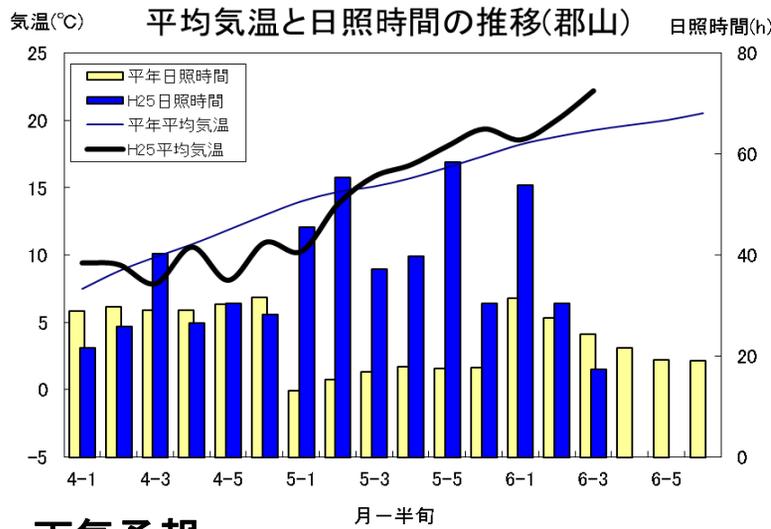
発行：郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市営農推進課 Tel. 924-3761)

Vol.5 「除草・防除・中干し」次回は7月上旬

最新号はJA各支店窓口に備え付けてあります。

1 生育概況

- (1) 6月20日の調査結果では、平坦は草丈が平年に比べ長く、茎数は平年に比べ多くなっています。湖南地区は草丈がやや短く、茎数は多くなっています。
- (2) イネミズゾウムシやイネドロオイムシの発生は平年に比べ少なくなっています。



6月20日 生育調査結果

品種 (調査地点)	年次	草丈 (cm)	茎数(本)		葉令
			株あたり	m ² あたり	
コシヒカリ (三穂田)	本年	46.3	27.9	438	8.9
	平年比(%)・差	133	119	97	+2.0
コシヒカリ (田村)	本年	47.9	29.9	616	6.9
	平年比(%)・差	125	129	132	+0.9
ひとめぼれ (安積)	本年	36.1	20.4	306	6.1
	平年比(%)・差	129	147	110	+0.3
天のつぶ (喜久田)	本年	45.1	18.6	303	6.9
	前年比(%)・差	132	138	120	+1.2
あきたこまち (湖南)	本年	26.0	12.0	233	6.1
	平年比(%)・差	91	124	121	+1.3

2 天気予報

【1か月(6/15~7/14)予報】(6月14日 仙台管区气象台発表)

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。

【3か月予報】(5月23日 仙台管区气象台発表)

7月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

8月 平年に比べ晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

3 作業のめやす 「放射性セシウムによる稲の汚染を防ぐため、倒伏防止の徹底を!!!」

6/20

6/25

6/30

7/5

7/10

カリ追肥

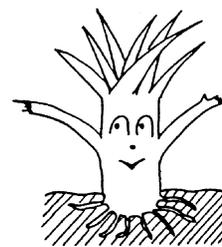
箱施薬剤を使用していない場合
すぐに葉いもち防除!

茎数が確保できたら 中干し・溝切り
幼穂形成期までに中干し終了

間断かん水
(低温時は深水管理)

4 水管理 「倒伏させないために、しっかり中干しを!」

- ① 茎数が少ないほ場では、引き続き浅水管理を行い、分けつを促進してください。
- ② 株当たり20本程度の分けつ(有効茎)を確保したら中干しを行い、無効茎を抑えましょう。
- ③ あわせて、溝切り(4~5m間隔)を行い、中干しを促進するとともに、その後の水管理を容易にして秋作業に備えましょう。
- ④ 中干しは、幼穂形成期前までに終了し、その後は間断かん水により根を健全に保ちましょう。低温の恐れがある場合は深水にしましょう。
- ⑤ 水不足ほ場では、無理に中干しを行わず、用水の確保状況に応じた水管理を行ってください。



*中干しは土壌条件、生育状態に合わせて実施を!

溝切りと併用すると落水が早いよ!

中干しの効果

- (1)有機酸や硫化水素などの水溶性の有害物質の排除
- (2)土中に酸素を供給することによって土の還元をなくす
- (3)土壌窒素の発現を一時的に抑制し稲の生育を調節
- (4)土壌を固くする

根ぐされ防止
倒伏防止

中干しは田面に亀裂が入り足跡がつく程度！

{ 生ワラ施用田、粘質土壌 ⇒ 強めの中干し
生育過剰田
{ 地力のない水田 ⇒ 間断かん水で
砂質土壌 (弱めの中干し)



稲が開張して登熟を高める

5 葉いもち 「伝染源となる置き苗は今すぐ撤去しましょう」

葉いもちに感染しやすい時期になりました。葉いもちの予防に努めましょう。

・まだ防除していない水田

オリゼメート粒剤等を、**葉いもち防除のため、すぐに散布**しましょう。地区全体で予防防除を徹底しましょう。

すでに発生してしまったら、粉剤・液剤等で防除し、拡大を防ぎましょう。

・移植時にウィン、Dr. オリゼ、デジタルコラトップ等の箱粒剤を使用した水田

効果が続く期間が長いため、7月中～下旬に水面施用剤(粒剤)で、穂いもち防除を行ってください。

6 カリ追肥 「倒伏させないために窒素を控え、カリ追肥で稲を丈夫に」

放射性物質吸収抑制対策として配布した塩化カリ 20kg/10a を基肥施用していない場合は、出穂40～35日前(6月下旬～7月始め)に塩化カリ 20kg/10a を必ず追肥してください。

塩化カリ 20kg/10a を基肥施用した場合は、追肥のカリ成分が含まれているため、塩化カリの追肥は不要です。

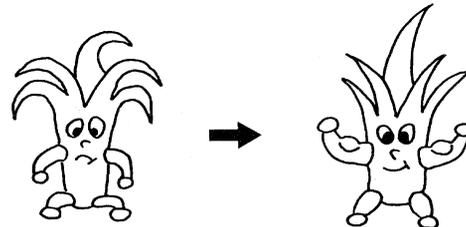
稲体強化等を目的として、ケイ酸カリ等を追肥する場合は、出穂40～35日前(6月下旬～7月始め)にカリの追肥を行って、茎と根を丈夫にします。

ケイ酸カリ(出穂40日前) 20kg/10a : でき過ぎた田、コシヒカリに有効

P K化成(出穂35日前) 20kg/10a : 一般田

追肥の効果

- ①稲の体を強くする。(いもち病等にかかりにくくする。倒伏防止)
- ②根の働きが良くなる。(下葉の枯れ上がり防止→登熟向上)
- ③籾殻を大きくしたり、籾の奇形が少なくなる。
- ④穂数、籾数、千粒重の増加が期待できる。



7 雑草防除 「ホタルイ・アゼナ対策」

雑草が残った場合は、下表を参考に防除してください。

雑草	イネの茎数	除草剤	使用時期	収穫前日数	使用上の注意
ホタルイ、アゼナ等広葉雑草だけ残った田	まだ茎数が足りない田	バサグラン粒剤(ナトリウム塩) 3～4kg/10a	移植後15～50日	60日前まで	落水し、尻水口をしめて散布する
	株20本以上確保した田	グラスジンMナトリウム粒剤 3kg/10a	有効分げつ終止期～幼穂形成期前	60日前まで	
広葉とヒエの両方残った田	茎数の確保に関係なく使用できる (ノビエ5葉期まで)	クリンチャーバスME液剤 1000ml/10a (70～100L/10a)	移植後15日～ノビエ5葉期	50日前まで	多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する
		フォローアップ1キロ粒剤 1kg/10a	移植後25日～ノビエ5葉期	60日前まで	

※グラスジンMナトリウム粒剤は分げつを止める作用があるので、茎数を確保してから使いましょう。

この資料は、平成25年6月13日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

農薬(特に粉剤・液剤)を使用する際は、近隣作物に飛散しないように注意してください。

***平成25年度福島県農薬危害防止運動展開中(6/10～9/10)**